

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-134650

(P2001-134650A)

(43)公開日 平成13年5月18日(2001.5.18)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 6 F 17/60
 G 0 9 B 29/00
 29/10
 H 0 4 Q 7/34
 7/38

識別記号

F I
 G 0 9 B 29/00
 29/10
 H 0 4 H 1/00
 G 0 6 F 15/21
 H 0 4 B 7/26

テ-マコ-ト[®](参考)
 F 2 C 0 3 2
 A 5 B 0 4 9
 G 5 K 0 6 7
 Z
 1 0 6 B

審査請求 有 請求項の数18 O L (全 10 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号

特願平11-314393

(22)出願日

平成11年11月4日(1999.11.4)

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 二瓶 克己

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株
式会社内

(74)代理人 100065385

弁理士 山下 穏平

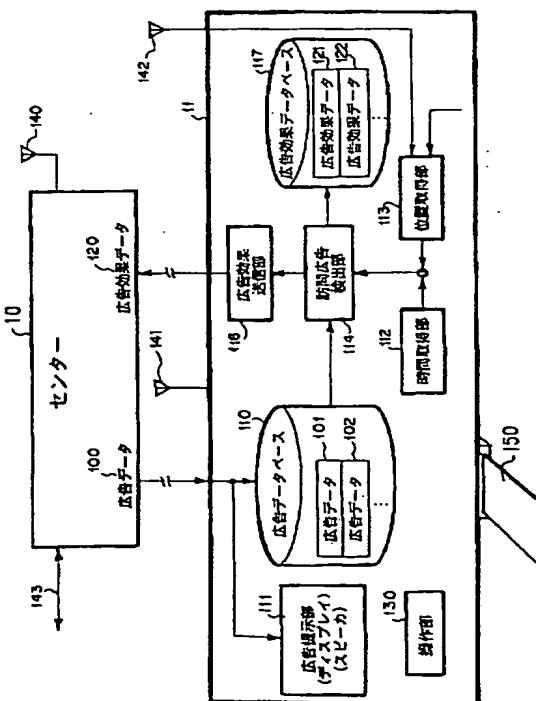
最終頁に続く

(54)【発明の名称】訪問保証型広告装置及び訪問保証型広告方法と移動体

(57)【要約】

【課題】 利用者に提示した広告に関する場所に、利用者が実際に訪問したかを、広告効果として確認でき、広告主に訪問保証型広告という仕組みを提供することを課題とする。

【解決手段】 センターから配信される電子的な広告を受信する移動体の訪問保証型広告装置、複数の広告データを受信して格納する広告データベースと、前記広告データを利用者に提示する広告提示部と、現在時刻を取得する時間取得部と、前記移動体の現在位置を取得する位置取得部と、前記時間取得部と前記位置取得部からの情報をパラメータとして前記広告データベースから利用者が訪問した前記広告データを検出し、広告効果データとして出力する訪問広告検出部と、前記訪問広告検出部が出力した前記広告効果データを格納する広告効果データベースと、前記訪問広告検出部が出力した前記広告効果データをセンターに送信する広告効果送信部とからなることを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 利用者とともに移動可能な電子的な広告を受信する端末により、前記利用者が広告に関連する位置を訪問したことを取得してその情報を送信し、広告の効果を確認可能にする訪問保証型広告装置において、センターから送信される前記電子的な広告であり前記広告に関連した位置の情報を含む広告データを格納する広告データベースと、

前記広告データに関連する位置を訪問した情報である広告の効果を示す広告効果データを格納する広告効果データベースと、

前記広告データを利用者に提示する広告提示部と、現在時刻を取得する時間取得部と、現在位置を取得する位置取得部と、

前記時間取得部と前記位置取得部からの情報を考慮して前記広告データベースから利用者が訪問した前記広告データを検出し、前記広告効果データとして出力する訪問広告検出部と、

前記訪問広告検出部が出力した前記広告効果データをセンターに送信する広告効果送信部とからなることを特徴とする訪問保証型広告装置。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の訪問保証型広告装置において、

前記広告データは、前記広告データを一意に識別するための値を記述する ID と、前記利用者に提示する広告内容を記述するコンテンツと、前記広告内容に関連する位置を領域として任意個記述する位置と、前記広告内容に関連する位置にどれだけの時間滞在したら訪問したとみなすかの時間を記述する最低滞在時間とから構成され、前記広告効果データは、前記広告データを一意に識別するための値を記述する ID と、前記広告効果データを送信するユーザを識別するためのユーザ ID と、前記広告データに関連する位置に滞在した日時を記述する滞在日時とから構成されることを特徴とする訪問保証型広告装置。

【請求項 3】 請求項 1 に記載の訪問保証型広告装置において、

前記訪問広告検出部が前記利用者が訪問した広告データを検出すると、前記広告効果送信部に前記広告効果データを出力することを特徴とする訪問保証型広告装置。

【請求項 4】 請求項 1 に記載の訪問保証型広告装置において、

前記訪問広告検出部が、前記利用者が訪問した広告データを検出し、前記時間取得部からの出力を考慮して定期的に前記広告効果データベースに格納されている前記広告効果データをまとめて前記広告効果送信部に出力することを特徴とする訪問保証型広告装置。

【請求項 5】 請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の訪問保証型広告装置において、

前記訪問広告検出部が前記位置取得部の出力した現在位

置と前記広告データの前記位置とを比較して前記領域内にあった場合、前記時間取得部が output した現在時刻を滞在開始時間とし、前記現在位置から移動したことを前記位置取得部から得た時間を前記時間取得部から得て滞在終了時間とし、前記広告データの前記最低滞在時間よりも前記滞在終了時間から前記滞在開始時間を引いた値が大きかった場合、前記広告データの ID を前記広告効果データの ID とし、前記広告データに関連する位置に滞在した日時を記述する滞在日時項目に滞在開始時間と滞在終了時間を記述した前記広告効果データを作成し出力する処理を行うことを特徴とする訪問保証型広告装置。

【請求項 6】 請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の訪問保証型広告装置において、

前記広告効果送信部は前記広告効果データのユーザ ID を一意に設定する処理を行うことを特徴とする訪問保証型広告装置。

【請求項 7】 請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の訪問保証型広告装置において、

前記広告効果送信部は前記広告効果データのユーザ ID を広告効果データ送信のたびにランダムに設定する処理を行うことを特徴とする訪問保証型広告装置。

【請求項 8】 請求項 2 に記載の訪問保証型広告装置において、

前記コンテンツが、映像、音声、テキストが単独、または各組み合わせからなることを特徴とする訪問保証型広告装置。

【請求項 9】 利用者とともに移動可能な電子的な広告を受信する端末により、前記利用者が広告に関連する位置を訪問したことを取得してその情報を送信し、広告の効果を確認可能にする訪問保証型広告方法において、

センターから送信される前記電子的な広告と前記広告に関連した領域の情報を含む広告データを広告データベースに格納する工程と、前記広告データに関連する位置を訪問した情報である広告の効果を示す広告効果データを広告効果データベースに格納する工程と、広告提示部に前記広告データを提示する工程と、現在時刻を取得する時刻取得工程と、現在位置を取得する位置取得工程と、前記時刻取得工程と前記位置取得工程とから前記広告データベースから利用者が訪問した前記広告データを検出し、前記広告効果データとして出力する訪問広告検出工程と、前記訪問広告検出工程で出力した前記広告効果データを前記センターに送信する工程とからなることを特徴とする訪問保証型広告方法。

【請求項 10】 請求項 9 に記載の訪問保証型広告方法において、前記広告データは、前記広告データを一意に識別するための値を記述する ID と、前記利用者に提示する広告内容を記述するコンテンツと、前記広告内容に関連する位置を領域として任意個記述する位置と、前記広告内容に関連する位置にどれだけの時間滞在したら訪問したとみ

なすかの時間を記述する最低滞在時間とから構成され、前記広告効果データは、前記広告データを一意に識別するための値を記述するIDと、前記広告効果データを送信するユーザを識別するためのユーザIDと、前記広告データに関連する位置に滞在した日時を記述する滞在日時とから構成されることを特徴とする訪問保証型広告方法。

【請求項11】 請求項9に記載の訪問保証型広告方法において、

前記訪問広告検出工程で前記利用者が訪問した広告データを検出すると、即座に前記広告効果データを前記サーバに出力することを特徴とする訪問保証型広告方法。

【請求項12】 請求項9に記載の訪問保証型広告方法において、

前記訪問広告検出工程は、前記利用者が訪問した広告データを検出し、前記時間取得部からの出力を考慮して定期的に前記広告効果データベースに格納されている前記広告効果データをまとめて前記サーバに送信することを特徴とする訪問保証型広告方法。

【請求項13】 請求項9乃至12のいずれか1項に記載の訪問保証型広告方法において、

前記訪問広告検出工程は、前記位置取得工程で出力した現在位置と前記広告データの前記位置とを比較して前記領域内にあった場合、前記時間取得工程で出力した現在時刻を滞在開始時間とし、前記現在位置から移動したことを前記位置取得部から得た時間を前記時間取得部から得て滞在終了時間とし、前記広告データの前記最低滞在時間よりも前記滞在終了時間から前記滞在開始時間を引いた値が大きかった場合、前記広告データのIDを前記広告効果データのIDとし、前記広告データに関連する位置に滞在した日時を記述する滞在日時項目に滞在開始時間と滞在終了時間を記述した前記広告効果データを作成し出力する処理を行うことを特徴とする訪問保証型広告方法。

【請求項14】 請求項9乃至13のいずれか1項に記載の訪問保証型広告方法において、

前記広告効果を送信する工程は前記広告効果データのユーザIDを一意に設定する処理を行うことを特徴とする訪問保証型広告方法。

【請求項15】 請求項9乃至14のいずれか1項に記載の訪問保証型広告方法において、

前記広告効果を送信する工程は前記広告効果データのユーザIDを広告効果データの送信のたびにランダムに設定する処理を行うことを特徴とする訪問保証型広告方法。

【請求項16】 請求項10に記載の訪問保証型広告方法において、

前記コンテンツが、映像、音声、テキストが単独、または各組み合わせからなることを特徴とする訪問保証型広告方法。

【請求項17】 センターから配信される電子的な広告を受信して広告効果を報告する移動体において、複数の広告データを受信して格納する広告データベースと、前記広告データを利用者に提示する広告提示部と、現在時刻を取得する時間取得部と、前記移動体の現在位置を取得する位置取得部と、前記時間取得部と前記位置取得部からの情報をパラメータとして前記広告データベースから利用者が訪問した前記広告データを検出・演算して広告効果データとして出力する訪問広告検出部と、前記訪問広告検出部が出力した前記広告効果データを格納する広告効果データベースと、前記訪問広告検出部が出力した前記広告効果データを前記センターに送信する広告効果送信部とからなり、前記広告データを受信したことと前記広告データベースに格納すること及び前記広告効果データベースに格納された前記広告効果データにより広告対応率を検出することを特徴とする移動体。

【請求項18】 請求項9乃至16に記載の訪問保証型広告方法をコンピュータが動作可能なプログラムとして該プログラムを格納したコンピュータが読み取ることのできる記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、利用者と共に移動可能で電子的な広告を受信する移動体端末により、利用者が広告に関連する位置を訪問したことを取得してその取得情報を送信し、広告の効果を確認可能にする訪問保証型広告装置および訪問保証型広告方法と移動体、更に該訪問保証型広告方法をプログラムとしてコンピュータが読み取ることのできる記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、電子的な広告において、Webのバナー広告に見られるように、広告を提供する利用者への最低提示回数を保証して、広告効果を保証する装置や方法が存在する。

【0003】ここで、バナー広告とはWebサイト内に掲載されている広告のことをいい、バナーとは旗、新聞の全段抜きの大見出しなどを意味し、バナー広告は広告内容を四角い画像ファイルを表示し、広告主が希望するサイトへのリンクを張り、静止画だけを表示する固定バナーと、一定の表示領域内に複数の広告主の広告を代わる代わる表示するローテーションバナーがある。バナー広告の場合、サイト自体の表示件数をカウントでき、バナーに対してクリックした件数に応じて広告費がアップする方式のサイトもある。

【0004】一方、バナー広告をクリックした回数を保証して、広告効果を保証する装置や方法が存在する。

【0005】さらに、バナー広告を見てから利用者が実際に該当広告の製品／サービスを購入する金額や回数を保証して広告効果を保証する装置や方法も存在する。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】ところが、例えば、レストランでの食事のように、実際にその場所を訪問する必要があり、電子的な手段だけでは購入することのできない製品／サービスが存在する。もちろん、レストランの広告を提示して宣伝することはできるが、広告を見て、訪問したかどうかの広告効果の確認をすることは、レストランで利用者にアンケートするなどの手段をとる必要があり、非常に手間がかかる。

【0007】本発明は、利用者に提示した広告に関連する場所に、利用者が実際に訪問したかどうかを簡単に広告主が知ることができれば、広告効果を確認でき、広告代のコストパフォーマンスがどの程度かを確認できることを課題として、広告主に訪問保証型広告という広告効果の高い広告の仕組みを提供するものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明は、利用者とともに移動可能な電子的な広告を受信する端末により、前記利用者が広告に関連する位置を訪問したことを取得してその情報を送信し、広告の効果を確認可能にする訪問保証型広告装置において、センターから送信される前記電子的な広告であり前記広告に関連した位置の情報を含む広告データを格納する広告データベースと、前記広告データに関連する位置を訪問した情報である広告の効果を示す広告効果データを格納する広告効果データベースと、前記広告データを利用者に提示する広告提示部と、現在時刻を取得する時間取得部と、現在位置を取得する位置取得部と、前記時間取得部と前記位置取得部からの情報を考慮して前記広告データベースから利用者が訪問した前記広告データを検出し、前記広告効果データとして出力する訪問広告検出部と、前記訪問広告検出部が出力した前記広告効果データをセンターに送信する広告効果送信部とからなることを特徴とする。

【0009】また、本発明は、利用者とともに移動可能な電子的な広告を受信する端末により、前記利用者が広告に関連する位置を訪問したことを取得してその情報を送信し、広告の効果を確認可能にする訪問保証型広告方法において、センターから送信される前記電子的な広告と前記広告に関連した領域の情報を含む広告データを広告データベースに格納する工程と、前記広告データに関連する位置を訪問した情報である広告の効果を示す広告効果データを広告効果データベースに格納する工程と、広告提示部に前記広告データを提示する工程と、現在時刻を取得する時刻取得工程と、現在位置を取得する位置取得工程と、前記時刻取得工程と前記位置取得工程とから前記広告データベースから利用者が訪問した前記広告データを検出し、前記広告効果データとして出力する訪問広告検出工程と、前記訪問広告検出工程で出力した前記広告効果データを前記センターに送信する工程とからなることを特徴とする。

【0010】また、本発明は、図1を参照して説明すれ

ば、利用者とともに移動可能な電子的な広告を受信する端末により、利用者が広告に関連する位置を訪問したことと取得してその情報を送信し、広告の効果を確認可能にする訪問保証型広告装置および訪問保証型広告方法において、センターから送信される電子的な広告であり広告に関連した位置の情報を含む広告データ100、101、102と、訪問保証型広告装置がセンターに送信する広告データ100、101、102に関連する位置を訪問した情報である広告の効果を示すデータの広告効果データ120、121、122と、広告データ100、101、102を受信し任意個格納する広告データベース110と、広告データ100、101、102を利用者に提示する広告提示部111と、現在時刻を取得する時間取得部112と、訪問保証型広告装置の現在位置を取得する位置取得部113と、時間取得部112と位置取得部113からの情報を考慮して広告データベース110から利用者が訪問した前記広告データ100、101、102を検出し、広告効果データ120、121、122として出力する訪問広告検出部114と、訪問広告検出部114が検出した広告効果データ120、121、122を格納する広告効果データベース117と、訪問広告検出部114が検出した広告効果データ120、121、122をセンターに送信する広告効果送信部116からなる。

【0011】さらに詳細を、図2、図3を用いて説明すると、広告データ100、101、102が、広告データを一意に識別するための値を記述するID200と、利用者に提示する広告内容を記述するコンテンツ201と、広告に関連する位置を領域として任意個記述する位置202と、広告に関連する位置にどれだけの時間滞在したら訪問したとみなすかの時間を記述する最低滞在時間203からなり、広告効果データ120、121、122が、広告データ100、101、102を一意に識別するための値を記述するID300と、広告効果データ120、121、122を送信するユーザを識別するためのユーザID301と、広告データ100、101、102に関連する位置に滞在した日時を記述する滞在日時302とからなる。

【0012】上記動作処理の説明をすると、訪問広告検出部114が、利用者が訪問した広告データを検出すると、即座に広告効果送信部116に広告効果データ120、121、122を出力、または、即座に広告効果送信部116に出力せず、時間取得部112からの出力を考慮して定期的に広告効果データベース117に格納されている広告効果データ120、121、122をまとめて広告効果送信部116に出力する。

【0013】広告効果送信部116が、広告効果データ120、121、122のユーザID301を一意に設定する処理、または、広告効果データ120、121、122のユーザID301を広告効果データ送信のたび

にランダムに設定する処理をおこなう。

【0014】さらに処理を詳細化すると、訪問広告検出部114が、位置取得部113の出力した現在位置と広告データ120、121、122の位置202を比較して領域内にあったら、時間取得部112が出力した現在時刻を滞在開始時間とし、現在位置から移動したことと位置取得部113から得て、その時間を時間取得部112から得て滞在終了時間とし、広告データ120、121、122の最低滞在時間203よりも滞在終了時間から滞在開始時間を引いた値が大きかったら、広告データ120、121、122のIDを広告効果データ120、121、122のID300とし、滞在日時302に滞在開始時間と滞在終了時間を記述して広告効果データ120、121、122を作成し出力する処理をおこなう。

【0015】こうして、前記広告データを受信したことを前記広告データベース110に格納すると共に、広告データベース110に格納したことを送信部である広告効果送信部116を用いてセンター10に通信しておけば、広告データベース110に格納した広告データの数と広告効果データベース117に格納された広告効果データの数により、その移動体の広告対応率（広告効果データ数／広告データ数）を検出することができると共に、センター10に通知された広告データを受信格納した移動体の数と、広告効果データの数とから、その広告の広告効率（広告効果データ数／通知移動体の数）を検出することができ、広告効果の数値的管理さえを可能とすることができます。

【0016】

【発明の実施の形態】本発明による実施形態について、図面を参照しつつ詳細に説明する。

【0017】【第1の実施形態】次に、本発明の一実施形態による訪問保証型広告装置及びそのシステムについて、図1乃至図6を参照して説明する。

【0018】（構成の説明）図1において、10は通信システムや特に本発明の広告データを広告主から有線回線又は無線回線によって受信して送受信部を有する移動体と送受信するセンターであり、11はその移動体であり、車載用移動体、携帯電話、ハンディホン等が該当する。また、本発明による広告提供システムは、広告データと移動体とは、広大な地域で、広告データの示す位置がボソン・ポツンとある領域で用いることを想定すると理解しやすい。

【0019】図1に示す広告提供システムは、広告主からの広告データを放送形態で配信し、散在する移動体に対してその広告データを送付し、その広告データの効果を各移動体から回答を得て、広告効果を広告主に報告する広告情報供給元となるセンター10と、主に広告データを提供され広告効果を出力する移動体の訪問保証型広告装置11とから構成されている。センター10と移動

体の訪問保証型広告装置11とは主に無線で接続され、センター10のアンテナ140と訪問保証型広告装置11のアンテナ141とで、予め定めてある無線周波数で相互通信を実行する。

【0020】この訪問保証型広告装置11について、主に車載用移動体として、放送波又は無線波によって、センター10から広告データを受け、広告データベース110に格納すると共にディスプレイ或いはスピーカ等の広告掲示部111によって、広告データを掲示する。また、広告データベース110からの広告データ101、102と当該広告掲示部111からの掲示広告を訪問したユーザによる時間取得部112及びその位置取得部とから訪問広告検出部により検出され、広告効果データベース117の広告効果データ121、122に格納すると共に、広告効果送信部116からセンター10に広告効果データを送出する。

【0021】また、図2に広告データの構成図を示す。図2の広告データは広告データID200と、その内容のコンテンツ201と、移動器の位置202と、最低滞在時間203とから構成されている。また、図3は広告効果データの構成を示し、広告効果ID300と、ユーザID301と、滞在日時302とから構成されている。

【0022】また、図4は広告データの例を示す図であり、例えば広告データID200を1とし、コンテンツ201を「テキスト＝”ABCレストランの夏の・・・”とし静止画＝そのレストランの地図とし、移動器の位置202を緯度＝X1、経度＝Y1、緯度＝X2、経度＝Y2、緯度＝X3、経度＝Y3、緯度＝X4、経度＝Y4とし、最低滞在時間203＝30分とした広告データがあるとする。

【0023】また、図5は広告効果データの例を示す図である。例えば、広告効果ID300＝1とし、ユーザID301を12とし、滞在日時302を1999-09-24T11:52:05から1999-09-24T12:45:39とした広告効果データとする。また、図6は広告提示部の例を示す図である。

【0024】また、図6は広告提示部111の一例を示す図である。図6によれば、全画面が広告の画像であり、地図とキャラクタの店名と特徴とが記載されている。

【0025】まず、図1に示すように、広告データ100、101、102は、センターから送信される電子的な広告であり、広告に関連した位置の情報を含む。例えば、Webのバナー広告が考えられるが、これに限定しない。ここで、広告に関連した位置とは、コンテンツに関連する地理的な位置をいい、例えばこのコンテンツに関連する駐車場の位置や公園の領域、地域名所の広告であればその名所領域や観光領域など、近年の広告業界の発展に従って、多岐に亘る地理的な位置を特定できる。

この地理的な位置或いは領域を特定しておけば、広告データを掲示し、それを視聴した移動体の広告受領者が、その位置或いは領域に所定時間滞在した場合には、広告効果としての訪問が成されたと判断できる。

【0026】この点を詳細化すると、広告データ100、101、102は、ID200、コンテンツ201、位置202、最低滞在時間203からなる。図4に広告データ100、101、102にレストランを記述した例を示す。

【0027】また、ID200は、広告データ100、101、102を一意に識別するための値を記述する。例えば、数値や文字列を記述する。図4の例では、ID200に数値「1」を記述してある。

【0028】図2に示すコンテンツ201は、利用者に提示する広告内容を記述する。例えば、静止画像、動画像、音声、テキスト・キャラクタを用いて、レストラン・博物館・遊園地パーク・デパートなどの広告を記述することが考えられる。図4の例では、コンテンツ201は、テキストと静止画からなり、テキストには”ABCレストラン夏の…”、静止画にはレストランの地図を記述しており、具体的には図6に示すような画面を広告掲示部111に表示・掲示する。

【0029】また、位置202は、広告に関連する位置を領域として任意個記述する。例えば、広告データがレストランであった場合、そのコンテンツに関連ある位置202にはレストランの店舗と駐車場の領域を記述する。例えば、領域が多角形である場合、多角形の各頂点を緯度経度で記述したり、領域が円形である場合、円形の中心点を緯度・経度で記述し、半径を記述することが考えられる。図4の例では、位置202に多角形の4頂点を緯度・経度で記述してある。

【0030】最低滞在時間203は、広告に関連する位置にどれだけの時間滞在したら訪問したとみなすかの時間を記述する。いわゆる時間的なしきい値である。図4の例では、最低滞在時間203に30分レストランに滞在したら、訪問したとみなすと記述してある。この滞在時間はコンテンツの内容によって可変される。例えば広告主がレストランの場合には30分、公園の場合には1時間というように、広告主と相談の上最低滞在時間を決定してもよい。

【0031】広告効果データ120、121、122は、訪問保証型広告装置がセンターに送信する広告データ100、101、102に関連する位置を訪問したという実績情報である広告の効果を示すデータである。

【0032】詳細化すると、図3に示すように、広告効果データ120、121、122は、ID300、ユーザID301、滞在日時302からなる。図5に広告効果データ120、121、122にレストランを訪問した場合の記述例を示す。

【0033】ID300は、広告データ100、10

1、102のID200と同じく「1」としており、広告データ100、101、102を一意に識別するための値を記述する。例えば、数値や文字列を記述する。図5の例では、ID300に図4のレストランを示す「1」を記述してある。

【0034】ユーザID301は、広告効果データ120、121、122を送信する移動体の訪問保証型広告装置11の保持者であるユーザを識別するための値を記述する。例えば、数値や文字列を記述する。図5の例では、ユーザID301に「12」を記述してある。

【0035】滞在日時302は、広告データ100、101、102に関連する位置に滞在した日時を記述する。図5の例では、滞在開始した日時を1999年9月24日11時52分5秒、滞在終了した日時を1999年9月24日12時45分39秒と記述してある。

【0036】図1に示す広告データベース110は、受信した広告データ100、101、102を任意個格納する。例えば、コンピュータのファイルシステムや、関係データベースが考えられるが、これに限定しない。

【0037】広告提示部111は、広告データ100、101、102を利用者に提示する。例えば、広告データ100、101、102のコンテンツ201を利用者に提示する。コンテンツ201が映像の場合にはモニタ・ディスプレイが、音声の場合にはスピーカが考えられるがこれに限定しない。例えば、コンテンツ201がテキストと静止画であった場合、図6に示したように、モニタにテキストと静止画を表示する。

【0038】時間取得部112は、現在時刻を取得する。例えば、時計が考えられ、訪問保証型広告装置11内のCPU用クロックをに基づいて時間をカウントしてもよい。

【0039】位置取得部113は、訪問保証型広告装置11の現在位置を取得する。例えば、GPS用アンテナ142を用いたGPS (Global Positioning System) が考えられるが、これに限定しない。例えば、地磁気センサーや、車輪センサー、ジャイロセンサー等を、車載の制御装置であるECU (Electronic Control Unit) によって演算制御されて現在位置を取得できる。例えば、GPS装置では、数mの誤差率で、緯度・経度が測定できるので、本実施形態の滞在位置と滞在時間を特定するためによく、カーナビゲーターに常設されている可能性が高いので、容易に位置取得部112が設定され得る。

【0040】訪問広告検出部114は、時間取得部112と位置取得部113からの情報を考慮して、広告データベース110から利用者が訪問した広告データ100、101、102を検出し、滞在時間を計算して、所定時間以上の滞在を確認したならば、広告効果データ120、121、122として出力する。

【0041】また、広告効果送信部116は、移動体と

して用いられる受信部に対する送信部と共に用いることができ、移動体と基地局にあるセンター10との音声、ビデオ、データ通信の一つに広告効果の送信通知があるとみてもよい。また、不図示の移動体の受信部から復調した広告データは、広告掲示部111に表示出力等を行うと共に、広告データを広告データベース110に格納した場合には、その送信部116からセンター10宛に広告データを格納した旨の通信メッセージを送出する。

【0042】(動作の説明)以下、図7を参照しつつ、訪問広告検出部114の処理方法について説明する。まず、日本のように狭い領域でサービス広告主が密集している場合よりも、例えば米国のように広告主が散発的に存在し、広告主のサービス地域周辺には1つだけの場合が多い地域を例示する。

【0043】最初に、広告データベース110に広告データ100、101、102が存在するかチェックする(S100)。この場合、例えば高速道路のレストランの場合、そのレストランが広告主であって広告データをセンター10を介して訪問保証型広告装置11に広告データベース110に登録しているものとする。その広告データが存在したらS101へ、存在しなかったら、もう一度チェックするためS100へ移行する。広告データベース110から広告データ100、101、102を一つ取り出す(S101)。位置取得部113から訪問保証型広告装置11の現在位置を取得する(S102)。

【0044】つぎに、現在位置がS101で取り出した広告データの位置202の領域内にあるかチェックし、領域内にあるならばS104へ、領域内にないならばS100へ移行する(S103)。時間取得部112から現在時刻を取得し、S101で取り出した広告データの滞在開始時間とする(S104)。位置取得部113から訪問保証型広告装置11の現在位置を取得し、現在位置がS101で取り出した広告データの位置202の領域内にあるかチェックし、領域内にあるならば再びS105へ、領域内にないならばS106へ移行する(S105)。

【0045】つぎに、時間取得部112から現在時刻を取得し、S101で取り出した広告データの滞在終了時間とする(S106)。滞在終了時間から滞在開始時間を引いた時間が、S101で取り出した広告データの最低滞在時間203を超えていたら、訪問したとしS108へ、超えていないならばS100へ移行する(S107)。広告効果データのID300をS101で取り出した広告データのID200とし、広告効果データの滞在日時302に滞在開始時間と滞在終了時間を設定して、即座に広告効果データベース117に格納すると共に、即座に広告効果送信部116に広告効果データを出力、または、即座に広告効果送信部116に出力せず、

時間取得部112からの出力を考慮して、定期的に広告効果データベース117に格納されている広告効果データ120、121、122をまとめて、広告効果送信部116に出力し、S100へと処理する(S108)。

【0046】以上は一実施形態であり、他の実施形態としてはリアルタイムに訪問広告を検出するのではなく、定期的に時間取得部112と位置取得部113から得た情報を、位置とその位置を訪問した時間の組で記憶しておき、訪問広告検出部114が定期的に先の位置とその位置を訪問した時間の組と広告データベース110に格納されている広告データ100、101、102を比較することで、どの広告データに訪問したかを検出することも考えられる。

【0047】広告効果データベース117は、訪問広告検出部114が出力した広告効果データ120、121、122を格納する。

【0048】広告効果送信部116は、訪問広告検出部114が出力した広告効果データ120、121、122をセンターに送信する。

【0049】以下、広告効果送信部116の処理方法について説明する。広告効果送信部116が、広告効果データ120、121、122のユーザID301を一意に設定する処理を行う。例えば、広告データに訪問する利用者の同意が得られていれば、利用者毎に固有のユーザID301を設定することで、どのような利用者がどの広告に関連する位置を訪問したかを知ることができる。

【0050】また、広告データをセンター10から受信して、受信したことを広告データベース110に格納す

ると共に、広告データベース110にその広告データを格納したことをセンター10側に知らせるように、送信部の一形態の広告効果送信部116を介して、所定のコードパターンでセンター10に送信しておく。そうすると、所定期間内のその移動体の広告対応率(広告効果データ数/広告データ数)を検出することができる。また、センター10に通知された広告データを受信格納した移動体の数と、広告効果データの数とから、その広告の広告効果率(広告効果データ数/通知移動体の数)を検出することができる。そうすれば、広告効果の数値的管理が現実的となる。

【0051】または、広告効果データ120、121、122のユーザID301を、広告効果データの送信のたびに、ランダムに設定する処理をおこなう。例えば、利用者のプライバシーを考慮して、広告効果データ送信のたびにランダムに設定することで利用者を特定できないようにすることで、個人のプライバシーを守ることもできる。

【0052】上記実施形態では、広大な地域で、広告データ及びその広告データの指定する領域に所定時間滞在することを特定できる場合について説明したが、近い将

来、GPS等により車載用移動体の位置が微細に特定できるようになり、広告データが増加しても各広告データが特定する位置を確実に確保できるように性能的に向上すれば、広大な地域のみならず、密集した領域になっても、この広告効果を確実に検出できるようになる。また、車載用移動機に限らず、携帯用の移動体であっても、位置取得部113の性能の向上によって、車載用移動体と同様に広告効果を容易に検出できる状態になることが予測できる。

【0053】また、図1には、訪問保証型広告装置11にはフロッピー(登録商標)ディスクやスマートメモリー等の記録媒体150が記載されており、当該訪問保証型広告装置11に予め格納されている本装置に用いるコンピュータプログラムやデータベース等をソフトウェアとして記録媒体に格納することができる。この記録媒体によって、広告データの広告効果を求めるプログラムを他の移動体に移植して、該プログラムをコンピュータで動作させ、センターに広告データに対応する広告効果を送信することで、スポンサーである広告主に広告効果の報告をセンターを介して行うことができる。

【0054】また、上記実施形態では、広告効果のパラメータとして利用者の位置と滞在時間を設定したが、広告データによっては、コンテンツに関連する位置を特定できない場合があるが、例えば通信サービス業や鉄道運搬業などであるが、この場合には広告主が何を指標として広告効果を計れるのかを特定して、位置の代わりにその指標に基づいて、広告効果を検出できるようにしておけばよい。通信サービス業のプロバイダでは、広告データをブロードキャスト的に放送し、そのうち回答受付時間毎に何局がサービスを受けるのかをもって広告効果とする場合には、パラメータをユーザ数、時間として広告効果を判断できる。

【0055】

【発明の効果】本発明により、例えば、レストランでの食事のように、実際にその場所を訪問する必要があり、電子的な手段だけでは購入することのできない製品／サービスの広告でも、利用者に提示した広告に関連する場所に、利用者が実際に訪問したかどうかと、その滞在日時を取得し、その情報を簡単に広告主が知ることができれば、広告効果を確認でき、広告主に訪問保証型広告という広告効果の高い広告の仕組みを提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の構成を示す図である。

【図2】本発明による広告データの構成を示す図である。

【図3】本発明による広告効果データの構成を示す図である。

【図4】本発明による広告データの例を示す図である。

【図5】本発明による広告効果データの例を示す図である。

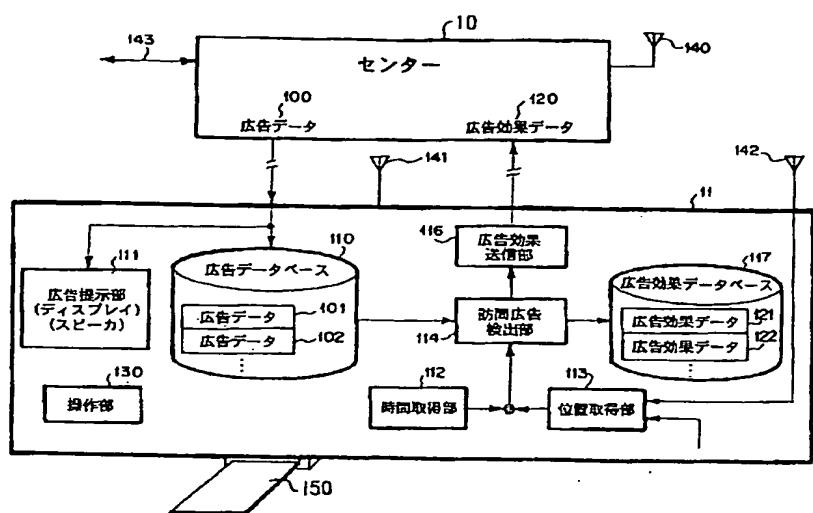
【図6】本発明による広告提示部の例を示す図である。

【図7】本発明による訪問広告検出部の動作例を示す図である。

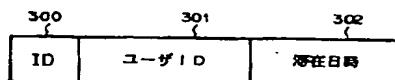
【符号の説明】

10	10 センター
	11 訪問保証型広告装置
	100 広告データ
	101 広告データ
	102 広告データ
	110 広告データベース
	111 広告提示部
	112 時間取得部
	113 位置取得部
	114 訪問広告検出部
20	116 広告効果送信部
	117 広告効果データベース
	120 広告効果データ
	121 広告効果データ
	122 広告効果データ
	130 操作部
	140, 141, 142 アンテナ
	150 記録媒体
	200 広告データID
	201 広告データコンテンツ
30	202 広告データ位置
	203 広告データ最低滞在時間
	300 広告効果データID
	301 ユーザID
	302 滞在日時
	S100 広告データチェック
	S101 広告データ取り出し
	S102 現在位置取得
	S103 広告データが領域内にあるかチェック
	S104 滞在開始時間設定
40	S105 広告データが領域内にあるかチェック
	S106 滞在終了時間設定
	S107 広告データに関連する位置に訪問したかチェック
	S108 広告効果データ出力

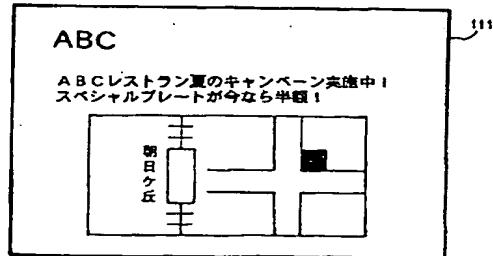
【図1】



【図3】



【図6】



【図2】

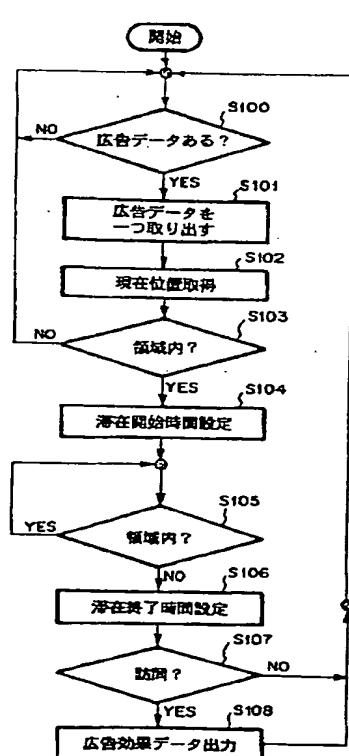
200	201	202	203
ID	コンテンツ	位置	最低滞在時間

200	201	202	203
1	テキスト="ABCレストラン裏の..." 静止画一地図	経度=X1, 緯度=Y1, 経度=X2, 緯度=Y2 経度=X3, 緯度=Y3, 経度=X4, 緯度=Y4	30分

【図5】

300	301	302
1	12	From 1999_09_24T11:52:06 To 1999_09_24T12:45:39

【図7】



フロントページの続き

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	マーク(参考)
H 04 H	1/00	H 04 B	7/26
		H 04 Q	7/04
			109M
			D

F ターム(参考) 2C032 HB22 HB25 HC22 HC27 HC31
HD03 HD13
5B049 BB49 CC00 FF04 FF06 GG03
GG06
5K067 AA21 BB21 DD51 EE02 EE12
FF02 FF03 FF05 FF23 HH11
JJ53 JJ61